



# MG-LAC 2021 年度活動報告



愛のある知性を。

宮城学院女子大学

# MG-LAC

(宮城学院女子大学リエゾン・アクション・センター)

## 地域と連携し、学生の自主活動をサポートします。

宮城学院女子大学は、地域社会と連携し、学生の自主的・実践的な学び、社会貢献の場を提供しています。LAC (リエゾン・アクション・センター) の「Liaison」(リエゾン、連携) という言葉には、学生が教職員と、大学と地域がつながり、協働して活動を創っていくという願いが込められています。学生は大学での学びをいかし、自主企画活動やボランティア活動など、多彩な活動を展開しています。宮城学院女子大学の学生による自主活動への取り組みは、「大学基準協会」から最高ランクのS判定をいただいています。

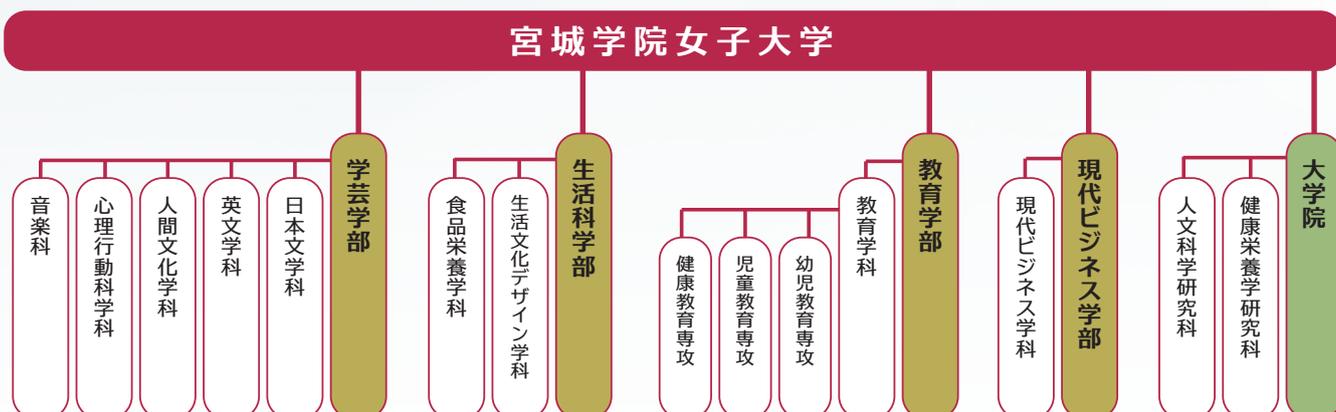
## MG-LAC (リエゾン・アクション・センター)

MG-LAC は、大学での学びを生かした学生のプロジェクト型自主活動を支援します。



プロジェクト型自主活動……学生たちが授業やサークル以外で「やりたいこと」に主体的に取り組む活動です。社会人としての基礎力も養います。

## 宮城学院女子大学 2 研究科 / 4 学部 9 学科



# 学内ボランティアクラブ

## 3つの国際奉仕団体、学生組織を擁しています。

現在、宮城学院女子大学には3つの国際奉仕団体の学生組織があります。知見を広げ、社会で責任を果たし活躍する女性となるべく、活動しています。

### 宮城学院女子大学 ゴールデンZクラブ

女性の地位の向上を目指す世界的な奉仕団体であるゾンタクラブの大学支部として2015年に発足しました。宮城県の魅力や被災地で活躍する女性について取材し、日本語と英語で世界に発信する活動など、女性の自立支援につながる活動を行っています。

<https://mgugoldenz.wixsite.com/mgugoldenzclub>

 mgugoldenz



### 宮城学院女子大学 さくらレオクラブ

2017年8月に発足。国際的な社会奉仕団体ライオンズクラブの大学支部として、奉仕活動を通してリーダーシップ等を育成するプログラムを行っています。「咲かせよう 奉仕の心」をスローガンに、様々な奉仕活動に取り組んでいます。

 sakura\_leoclub  mgu\_sakura  @928uostr



### サークルK 宮城学院女子大学

子どもたちのための奉仕団体である国際組織キワニスクラブの国内4番目の学生支部として2018年2月に認証。子ども食堂、水の森児童館での学習支援など主に子ども支援の分野で活動しています。

 circlek\_mgu



# 学生が自主的に企画・運営するプロジェクト活動

## 桜ヶ丘古文書プロジェクト

「守る、伝える、地域の歴史」をモットーに古文書を中心とした地域の文化財の保全活動や勉強会を行っています

代表 ■ 田口 佳奈美 人間文化学科 4年

新規プロジェクトにもかかわらず多くの学生が参加してくれたこと、古文書をお借りしていた岩松旅館さんから感謝のお言葉を頂けたことはとても嬉しかったです。何より活動を通して「地域の歴史を大切にしていきたい」という強い気持ち、歴史資料の保全活動にやりがいを感じられたのはプロジェクトに参加したからこそ得られたものだと思います。古文書の知識はもちろん、プロジェクトのまとめ方など社会人になった際に活かせる力も身に付けることができたのでこの活動に参加して本当に良かったです。



## Foosion

「食」というテーマから地球環境問題と持続可能な社会について考えます

代表 ■ 山下 朋美 食品栄養学科 2年

今年度より新しくプロジェクトを立ち上げました。Foosion の目標として掲げていた「地球環境問題と持続可能な社会について考え、自らの行動に移す学生の輪を広げる」から今年度の活動を振り返ると、プロジェクトメンバーで外部のセミナーを受講し、学習会を開くなど、問題に対する理解を深めることができましたが、普及までは達成できませんでした。メンバーのほとんどが食品栄養学科の学生であり、食を取り巻く問題について考える機会も多いので、より様々な学科の学生にも関心を持ってもらえるような企画や活動内容を取り入れることも必要だと感じました。



## MSJC

宮城県のプロスポーツチームを取材し、その魅力を発信しています

代表 ■ 吉川 美月 人間文化学科 3年

今年度はコロナウイルスの影響もあり、学校に来る機会もバラバラだったため、対面でメンバーと話す機会を設けることがあまりできませんでした。しかし、活動自粛の中でも話し合いをする機会を設ければ時間の無駄にはならなかったと、今後の活動への課題を見つけることができました。今年度はマイナビ仙台レディースさんに、これまでの活動に興味を持っていただき来年度に繋がる活動について話すことができました。今後はコロナ禍でも自分達で協力し、工夫して活動していくべきだと思います。



## にじいろプロジェクト

LGBT 等セクシャルマイノリティの啓発活動を行い、性の多様性について考えます

私たちにじいろプロジェクトは、毎月勉強会を開催し、メンバーと共に性の多様性に関する学びを深めていきました。また、SNS なども積極的に活用し活動をしてきました。対面での活動が十分にできなかったので企画への参加率は低かったですが、工夫して活動するために試行錯誤を重ねることができ、学ぶことの多い1年となり、にじいろプロジェクトのこれからはもっとより良くなれると思えました。反省の多い1年でしたが、思い出はたくさんあります。この思い出を無駄にしないようにしていきたいです。



## Sp①t A You

スポーツ栄養を学び、学外スポーツチームで継続的栄養サポートを実践しています

代表 ■ 星 莉菜 食品栄養学科 3年

今年度の活動で最も印象に残っていることは、株式会社エフアシストさんと連携してコラム記事の作成及びプロテインの開発を行ったことです。プロテイン開発では、目的・対象者を明確にして味、配合内容、内容量、袋のデザイン、販売方法まで学生内で提案し、何度も話し合いを重ね、サンプルを試飲して開発しました。その他にも、栄養指導では選手が何を目的に指導して欲しいのか、選手自身の食事意識がどのくらいあるのか、選手の生活環境はどうかなどを考えながら指導することを実践的に学ぶことができました。



## Heartful Sweets

病気の子ども達とご家族の滞在施設ドナルド・マクドナルド・ハウスせんだいにてお菓子作りを通してホッとする時間を提供します

代表 ■ 佐藤 里穂 生活文化デザイン学科 3年

今年度は、昨年に引き続きコロナ禍での活動となり、施設にレシピカードを郵送するという活動をしてきました。レシピカードの作成は、できるだけみんなが参加できるように活動をしてきましたが、一年を通して施設での活動をする事ができませんでした。今年度からジジリビングの活動に初めて参加させていただきました。子どもたちの居場所を提供するというのをテーマとし、活動をしてきました。オープンや電子レンジがなく、何をつくるか考えるのがとても難しかったのですが子どもたちが美味しいと言って食べている姿を見てとても嬉しく思いました。



## 楽食プロジェクト

学生食堂のオリジナルメニューを考案しフェアを定期的開催します

代表 ■ 鈴木 里音 食品栄養学科 3年

今年度も学生ならではの視点で利用者に寄り添ったメニュー・環境を作り上げていくこと、また「ニーズを捉える力を付けること」を目標に活動をしました。メンバーの主である3年生の実習があり、活発に活動することができませんでしたが、先輩方の協力があり、6月には復活フェアとして歴代人気メニューを学生食堂にて提供しました。フェア開催と同時に学生にプロジェクトへの参加を呼びかけると、10名もの新メンバーが集まりました。1,2年生を主体とし、新体制初のフェアとなった12月のクリスマスフェアを開催することができました。メンバーも増えたので、来年はフェア開催数を増やしたり、ニーズをデータ化したりなど、より充実した活動を行っていきたいです。



## 国際支援活動 Triangle チーム TABLE FOR TWO

先進国と途上国の食の不均衡をなくすために、学生でも取り組みやすいサポートプログラムに参加します

代表 ■ 西野 桃子 人間文化学科 3年

本格的に活動を始めたのが後期からというスロースタートとなりました。おにぎりアクションは学内で特設ブースを設置し、昨年よりもずっと大きな規模で参加することができました。去年と同じものに参加しましたが、今年の方が胸を張って参加したと言える結果にできたことは、大きい成果となりました。また、食堂の方々にご協力いただき、2年ぶりに食堂でフェアを開催することもできました。来年度は他大学のTFTとのコラボが企画されています。今後も、協力してくださる方々や参加してくださる方々への感謝を忘れずに精力的に活動していきたいです。



## 国際支援活動 Triangle チーム Plan

国際支援について勉強会や講演会を行い、書き損じハガキの回収の利益を途上国へ寄付しています

代表 ■ 高泉 未空 人間文化学科3年

今年度は、国際支援に関する勉強会を月2回実施し、11月にプラン・インターナショナル・ジャパンの講師の方とオンライン講演会を開催しました。また、年度末にはがき回収を行いました。勉強会では、今までと異なる視点から国際問題について理解を深めることができましたと感じています。新型コロナウイルスの影響が残る中での活動となりましたが、今年も講演会やはがき回収プロジェクトが行えて、とても嬉しく思います。私たちの活動に関わってくださった大学の先生・職員の皆様、地域の方々にこの場をお借りし、厚く御礼申し上げます。



## 石巻市立大原小学校子ども支援ボランティア

石巻市立大原小学校にて日常支援やイベント開催などのボランティア活動を行います

代表 ■ 今野 福美 児童教育専攻2年

コロナ禍のため、思うように活動することができず悔しく感じることも多々ありましたが、大原小学校に在籍する子ども達と関わることで、私自身が元気をもらったと感じることがありました。日常支援に訪れたとき、子ども達の挨拶を聞いたとき、「このカレンダーのクイズ難しかったよ」「これ面白かった」とプレゼントした手作りカレンダーの感想を子ども達から聞いた際には、ボランティアに参加して良かったと思えました。「次はいつ来てくれるの?」「また遊ぼうね」など、次回を楽しみに待つ言葉をもらえたことで、活動を頑張ろうという気持ちになりました。



## 小百合園ボランティア

児童養護施設で日常支援や読み聞かせを行います

子どもたちの年齢が様々ということで、全員が楽しむことができる遊びを考えることに悩むこともありましたが、用意していった製作物を楽しんでくれたことがうれしかったです。どの年齢の子どもも楽しめるように教材選びや教材研究、事前準備をすることの大切さを学ぶことができました。10月に初めてボランティアに行った際、初対面だったにもかかわらず子どもたちが積極的に活動に参加して楽しんでいる様子を見ることができ、うれしく思いました。



## Food and Smile!

防災料理教室の開催や、SNS や動画配信で災害食レシピの普及を行っています

代表 ■ 熊谷 萌 食品栄養学科3年

今年も、感染症対策を行いながらの活動でした。ですが、昨年できなかった対面での料理教室を、感染症対策を徹底しながら開催することができ、コロナ禍の料理教室の形が確立できた大きな一歩であったと思います。対面で料理教室が行えなくとも、調理工程を撮影した動画を放映し、解説を踏まえて自宅で調理をしていただくという新たな方法を見つけることができました。料理教室での活動も続けながら、SNS や動画配信、メディアを使った活動の周知に力を入れ、災害食レシピや防災知識を幅広い世代に広めていきたいと思えます。



## たんぽぽ 蒲公英倶楽部

学校資料の調査や保全作業を実施し、展覧会を開催する

代表 ■ 高野 靖菜 人間文化学科3年

今年度で閉校してしまう丸森町内6校の日記・写真を活用し、歴史や暮らしを振り返るパネルを作成しました。私の母校である大内小学校では2月14日～26日にかけて「思い出展示会」を開催し、148年にわたる歴史に幕を下ろし、次年度から新たなスタートを切ります。展示期間中は卒業生・地域住民を中心に、小学生時代の思い出に会話がはずむ様子や、熱心にカメラのシャッターを切る姿が見受けられました。展示会を通して、小学校の教職員・展示会の来場者など、多くの方々から感謝の言葉をいただくことができました。記憶に残る貴重な経験となりました。



## ひまわり会

児童養護施設ラ・サール・ホームで日常支援を行います

代表 ■ 日下 千鶴 幼児教育専攻4年



## 小さな図書館プロジェクト

自由に貸出・寄付ができる本棚を学内で運営しています

代表 ■ 松浦 朱里 日本文学科3年



## MGPR

オープンキャンパスでのツアーの実施などMGUをPRしています

代表 ■ 笹原 愛里 日本文学科4年

## 算数教具開発プロジェクト

小学校の算数の授業で使用する教具を開発し算数教室を実施する

代表 ■ 安部 花菜 児童教育専攻3年



## 国際支援活動 Triangle チーム STUDY FOR TWO

中古教科書の回収・販売により得られた利益を途上国の教育支援事業へ寄付します

代表 ■ 阿部 みちる 人間文化学科3年



# ボランティア活動報告



## 「みなとのまち 100km 徒歩の旅」

折居 夢香 教育学科 幼児教育専攻 3年  
門傳 紗也華 教育学科 幼児教育専攻 3年

地元で子どもと関わる事業に参加したいと思ったことがきっかけで参加を始めました。みなとのまち 100km 徒歩の旅は、夏休みに大学生スタッフと小学4～6年生の子ども達が4泊5日をかけて100km歩き「生きる力」を醸成していく青少年育成事業です。学生スタッフは、子ども達が安全に100km歩けるよう毎週研修を行い、準備を重ねていきます。当日は各班に分かれ、子ども達や仲間と励ましあいながら、ゴールを目指して歩きました。昨年度からはコロナウイルスの影響で100km歩けていませんが、オンライン研修を行い、子ども達ともリモートで交流して活動を継続しています。今年度は、学生が考えたミッションに親子で挑戦しながらウォークラリーに挑む「みなファミ」を行いました。コロナ禍でも私たちができる企画を一人から考え、その企画に子ども達が挑戦する姿からは「どんな状況でも挑戦する大切さ」を学ぶことができました。これから先も困難なことがあると思いますが、仲間や子ども達と新しいみなとのまち 100km 徒歩の旅を創っていきたいと思っています。



### ● どんなボランティア活動に参加しましたか？

- ・子ども食堂ボランティア
- ・子ども園での保育補助ボランティア
- ・仙台光のページントユース部会
- ・NPO団体が主催する学習支援ボランティア
- ・ベガルタ仙台ボールパーソンボランティア
- など

### ● ボランティア活動に参加してみて

・社会人の方と連携をしながらイベントを一緒に作り上げることで、マナーなどの礼儀作法や正しい企画書の書き方などを学びました。  
(人間文化学科・2年)

・幼稚園実習で学んだ幼児への声掛けの仕方を生かしながら活動することができ、実際に幼児と触れ合うことで実習での学びをより実践に生かすことができました。  
(児童教育専攻・3年)



◆ボランティア・各プロジェクトについてのお問合せは MG-LAC までご連絡ください。

宮城学院女子大学リエゾン・アクション・センター (MG-LAC)

〒981-8557 宮城県仙台市青葉区桜ヶ丘 9-1-1

TEL: 022-279-1340 FAX: 022-279-5876 E-mail: lacvolu@mgu.ac.jp